COFFEE BREAK

■しぞ～か防災かるた　　中部ブロック／ぐれ

静岡市を中心に、静岡を愛する社会人や学生など多くの人々が関わって、地域の歴史や文化と東日本大震災の教訓を題材にした「しぞ～か防災かるた」を、ＮＰＯを中心とする市民有志らが作成しました。

「牛すじのうまさを活かす静岡おでん　ひとり七日の水と食料」、「巴川ゆるゆるとゆく水のかさ　語りつがんや七夕豪雨」、「世界一模型王国静岡県　プラモ技術で耐震補強」など、上の句5•7•5には静岡の名所や歴史などを織り交ぜ、下の句7•7には防災の心得を記した計44首で構成しています。

市民有志らは４年ほど前から地域をテーマにしたかるた作りの試みを始め、東日本大震災をきっかけに防災をテーマにした「しぞ～か防災かるた委員会」を設立しました。ワークショップや一般公募により約300の首が集まり、五十音順で「あ」から「わ」までを選びました。

小学校での出前授業や防災などの各種イベントに使え、大人も小学生以上の子どもであれば楽しく遊べます。さらに、それぞれの首には解説が別についていますので、単に遊びとしてではなく、その都度読み手が止めて解説するなど、深く防災や地域の話題を理解することができます。

委員会ではかるた大会を開催するなど、活動を支援してくださる方を募集しています。また販売もしていますので、興味のある方はホームページをご覧ください。

＜問合せ先＞しぞ～か防災かるた委員会
（静岡市番町市民活動センター 担当：高山・小野寺）

mail:sbousaikaruta@gmail.com
http://bousai-karuta.seesaa.net/

■駅伝－ガラスの心　　西部ブロック／シュタイクアイゼン

僕は“ガラスの心”の持ち主だ。繊細だという事ではない。ちょっと辛い事があると簡単にポキっと、、なんだかんだと言い訳しながら逃げ出そうと考えてしまう。そんな僕が最近"駅伝"に参加した。誘われたのが飲みの席で勢いだけで参加すると言ったのが始まりだった。まー本格的な大会ではなく42.195kmを14人でというものだ。１人３kmなのでなんとかなる距離なのだが、、ただ駅伝なのでマイペースで走る“ジョギング”ではなく、頑張って走る“ランニング”だ。この“頑張って”の部分が僕のガラスの心に重くのしかかる事になる。僕が３kmを頑張って走ったら、おそらく３回はいったん落ち着いて歩こうとなり、２回はもうやめてしまおうとなるのが関の山だ。だが駅伝はたすきが途切たらチームは失格、、走るしかない。たとえガラスの心が砕けようが走る以外の選択肢はないという事だ。それを重々承知した上で、、なのに練習を始めたのは大会２週間前、ぎりぎりになってからだ。余裕があったわけではない、やはりガラスの心のなせる業だ。まずタイムを計って愕然とした。15分は切らなければダメなところを楽勝の22分台、、まー当然な結果だ、15年以上頑張って走った事はないのだから。そこからは猛練習、方法なんか考える余裕も時間もなく、、ただひたすら走れる限り走った。大会２日前のタイムは16分台後半。早くはなったが15分は切れない。もう駅伝自体なかった事にしようとの思いを必死に抑えつつ、ガラスの心を支えながら、本番でどこまで頑張れるかだと自分に言い聞かせた。

当日、折れそうな心を抑えながらレースへ。たすきを受け取りスタート、、案外走れます。チームメイトの応援、頑張れの声、、頑張れます。“ガラスの心”も折れません。駅伝っていいですね。チームで走る重圧は、、その重さが背中を押す力に変わります。結局、なんとか15分を切ることが、、決して優秀なタイムではないですが満足。

充実感で迎えたレース終了後、タイムキーパー役の女の子から一言、“フォームは綺麗だけど、スピードがね”、、まだまだ練習です。確実に足りない体力と筋力を鍛える為に、、問題点がはっきりしたのが唯一の収穫。まだまだ折れるな僕の“ガラスの心”よ。

無礼句

■海は潜るもんだ

東部ブロック／荒崎ダイバー

自分の生まれ育ったところは漁師町で、素潜り漁が盛んな土地でした。女の人が潜る海女さんで無く、男の人が潜り貝（主にアワビやトコブシ・サザエ）を採ります。

自分を含め地域の子供は小学生の頃から、海に潜って貝を採って遊んでいました。ゴールデンウィークの頃からお盆まで、夏休みはほぼ毎日潜っていました。台風の時にも潜った事があります。さすがに死にそうになりました。ウィンドサーフィンをしている横で寿司のネタにあるアオヤギを採っていて、サーファーに轢かれるという珍しい経験もあります。ちなみに私は普通自動車・トラック・原付バイク・自転車・スノボー・ウィンドサーフィンに轢かれたことがあります。

潜っていて腹がへった時は良くウニを食べていました。当時、ウニ（紫ウニ）は売り物にならないので海の中にはゴロゴロしていて採り放題でした。今思えば密漁になってしまうのでしょうが、当時は漁師の方も何も言いませんでした。貝やウニが採れる海の中は海草がたくさん茂っており、地上で言うなら樹木の生い茂る森の様でした。あるとき東京湾の某所で潜る機会があったのですが、そこには同じような岩場であるのに、海草は一切無く、地上で言うなら、草木が一本も無い荒野の様でした。当然、貝やウニはひとつも無く、子供心に「この海は死んでいる」と思ったものです。実際の東京湾はプランクトンも多く、自分の勘違いなのですが、子供だった当事はわからなかったのです。

そんな子供時代を過ごしたので、旅行や仕事で知らない土地の海を見ると潜ってみたくなるのです。海の中がどんな感じか、つい確かめてみたくなります。海の表面を見ているだけでは本当の海はわかりません。本当の海は海中にあると女房や子供に言って聞かせているのですがまったく相手にされません。サーフィンやヨットなど軟弱だ、男なら素潜りだ、と言って白い目で見られる悲しい私です。

去年、話題になった海女さんのドラマを見て子供の頃、海で遊んでいた事を思いだし、楽しんでいる元ダイバーでした。

■因果応報

西部ブロック／新米パパ

我が家の長男は2歳半になったばかりですが、最近は欲しいオモチャを見かけると抱え込んで離さなくなります。

最近は、オモチャを売っている所には近づかないようにしていたのですが、先日ファミレスに行ったときに、車のオモチャが売られているのを発見してしまい、案の定の展開になりました。こうなってしまうと梃子でも動いてくれません。

妻と「なんでこんなところで売ってるんだ…。最悪だ…」とぶつぶつ言いながら携帯電話で好きな動画を見せたり、大好きなiPadで吊ってみたりあの手この手で気をそらそうと必死です。

ここで無理やり奪ったりすれば、大泣きして床に転がって駄々をこねて食事にならないのは火を見るより明らかなので、細心の注意を払って気をそらすように苦心します。

この日は、苦労の甲斐あってテーブルに案内され暫くした所で手放してくれて奪還に成功。
子供の気がそれているうちにコソコソと返却しに行きました。

帰りは妻に会計を任せ、私は子供を抱えてオモチャに気づかれないよう猛スピードで売り場を横切り駐車場まで直行して事なきを得ました。後日、「もうちょっと何とかならんかなー」と親に愚痴った所、「お前もそれくらいの年の時は、そんなだったから大変だった。」と言われてしまいました。

これって因果応報なんだなとしみじみ感じています。